



GREEN LETTER

グリーンレター

Vol. 260

2018/08/01

今月の一枚

今月のイベント

参加者募集

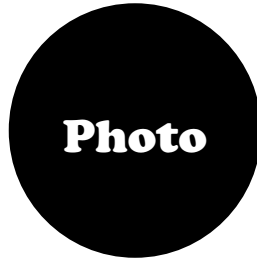
GREEN COLUMN

01. 見えない色

02. 落差工の影響



今月の一枚



「心地よい青空」

表紙写真・文／久保田結衣

雨が続く中で、ようやく訪れた、さわやかな青空。夏の空気が、美幌町をやさしく包み込んでくれているようです。心なしか、博物館正面に展示されている彫刻作品「碧空へ」(1988年・本田明二作)も晴天に腕をのぼし、喜んでいるように感じられます。

短い夏の一瞬一瞬を、大切に過ごしていきたいですね。

Event. 今月のイベント

特別展「アイヌ文化に生きる植物」 ～10月21日(日)

夏だ！昆虫グッズ！無料レンタル ～8月31日(金)

博物館講座(自然編)「どうしてそんなに大きいの？オオウバユリの大きいなる謎」 8月4日(土)

プチ工房「ステンドうちわ」 8月8日(水),10日(金),15日(水),17日(金)

Information. 参加者募集

夏だ！昆虫グッズ！無料レンタル

●～8/31(金)9:30-17:00 ●美幌博物館1F受付 ●無料 ●受付で名前と連絡先を記入すること。

博物館講座(自然編)「どうしてそんなに大きいの？オオウバユリの大きいなる謎」

【講演会】●8/4(土)10:00-12:00 ●博物館2F視聴覚室 ●無料 ●谷友和氏(上越教育大学) ●申込み不要。対象は中学生から一般。小学生も参加可能ですが、小学校3年生以下は保護者の同伴が必要、定員50名で締切。

プチ工房「ステンドうちわ」

●8/8(水),10(金),15(水),17(金)10:00-12:00,14:00-16:00自由に入室。作品ができたなら終了 ●美幌博物館1F講座室 ●材料費(1個300円) ●町田善康、久保田結衣(美幌博物館) ●申込み不要。小学校3年生以下は保護者の同伴が必要。

今月の休館日

6日,13日
20日,27日

〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用,持ち物 ●講師 ●申込み方法

01 GREEN COLUMN

グリーンコラム

見えない色

写真・文／久保田結衣



美幌町にもようやく夏が到来しました。明るい陽光、真っ青な空、白く厚みのある雲、青々と茂る草木など、夏の季節は、エネルギーに満ちた色彩で覆われているのを実感します。

またこの季節、エネルギーを遺憾なく発揮するものといえば…そう、紫外線です。お肌の大敵であり、あまりいいイメージを持たない言葉ですが、今回はその紫外線について少しお話を。

実は紫外線は広く言うと、色の仲間になります。人間は光の波長領域で見える範囲のものを「色」と認識します。その波長は大まかに紫、青、緑、黄、赤の変化の範囲で見ることができですが、紫外線は、波長領域の外側にある「光」のため、人の目で見ることができません。近い存在なのに、色は身体的に影響はないとされているのに対し、紫外線は人体に影響を及ぼすの

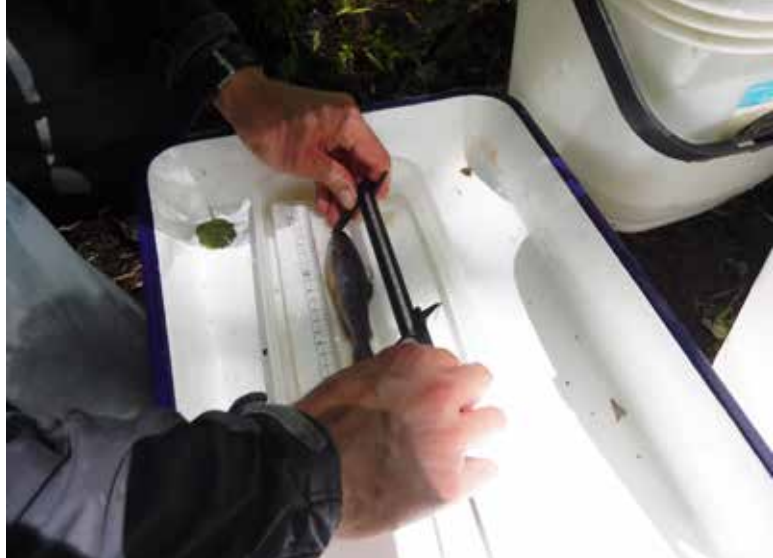
が不思議なところですよ。

しかし、人には見えない紫外線を「色」として認識できる生物が、複眼を持つ昆虫になります。ミツバチやチョウ、ガなど…複眼を持つ昆虫は、光（色）を感じる視覚が非常に発達しており、紫外線（太陽光）の反射や電球から発する光を刺激として認識し、反応する習性があります。種によって見え方は大きく異なるそうですが、私たちの目に映る景色とは違う色の世界が、昆虫たちに見えていると思うと、ついでにぞいてみたくなる気持ちに駆られてしまうのでした。

暑さと紫外線対策を万全に！私も昆虫たちに負けず、色鮮やかで生命みなぎる夏を満喫したいなぁと思う今日この頃です。

落差工の影響

写真／枝澤則行・文／町田善康



上流から下流までの流程に沿った川のつながりは、水生生物の移動経路として、重要な役割を果たします。特に、海と川とを行き来して暮らすサケなどの魚は、下流から上流までの川の連続性に強く依存します。そのため、一度、落差工やダムといった川の連続性を分断する構造物ができると、上下流間の移動が阻害されます。その結果、生物多様性の低下、遺伝的多様性の減少、生息数の減少・絶滅など様々な負の影響を及ぼします。

北海道には、約70種類の淡水魚が生息していますが、その大部分は海と川とを行き来する魚であるため、その影響は顕著に表れます。そこで、美幌町内では住民手作りの魚道を設置する取り組みが行われており、多くの魚が上流に遡上できるようになりました。また、このような住民手作りの魚道と並行して、行政による魚道づくりも行われ

る予定です。

そこで、これらの魚道の効果を検証するため、先日、魚類調査を行いました（写真）。すると、落差工の下流にはサクラマスやイワナなど、たくさんの魚が暮らしていました。しかし、落差工の上流には、サクラマスがいなくなり、イワナの生息数が1/10になりました。さらに、サクラマスやイワナの減少に反比例する形でハナカジカが多くなりました。

サクラマスやイワナは川と海を行き来して暮らしているため、落差工ができると移動が制限され、生息数が激減・絶滅しました。一方、海と川とを行き来しない定住性の強いハナカジカのような魚の数が増えているようです。今回の調査結果を受けて、魚道が設置されたら、どのように魚が回復していくのか非常に楽しみです。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実・久保田結衣

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/bunya/museum/>

無断掲載・転載を禁ずる

学芸員のつぶやき



.....

駒生川に魚道をつくる会が、日本水大賞の環境大臣賞を受賞しました！先月 27 日には、魚道づくりに携わった一人として、私も表彰式に参加してきました。全国から選りすぐりの水環境に関する発表を聞き、刺激を受けました。美幌の取り組みも負けずに頑張らねば！！（町田）